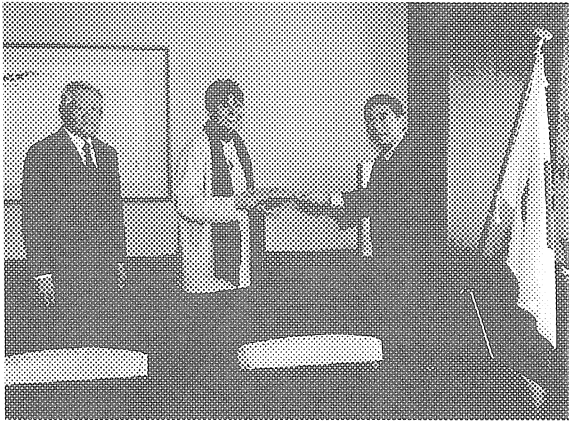


ワイマール市長から 鎌倉市長へメッセージ

すでに忘年パーティの折りに紹介されましたように
会員ペーター・リヒターさんの夫人ガブリエーレさん
は写真家で昨年写真集「鎌倉」を出版されました。こ
の写真集を昨年12月27日に鎌倉市と都市提携してい
るワイマールを訪問した際、ゲルマール市長に贈呈し
ました。カブリエーレさんはゲルマール市長と歓談の
後、石渡鎌倉市長宛の親書を預かり、本年1月25日、
岩崎会長、川本理事とともに市庁舎を訪れ、石渡市長
にゲルマール市長からの親書を手渡しました。なお、
ガブリエーレさんの写真展「鎌倉」が4月上旬より鎌
倉小町通の「ギャラリーYOU」で開催されます。



左より岩崎会長・カブリエーレさん・石渡市長

エルツおもちゃ博物館(軽井沢)新展示館開館

ザクセン州ザイフェン村立「エルツ山地のおもちゃ
博物館」の姉妹館として1998年に軽井沢にオープン
したエルツおもちゃ博物館は本年4月24日より新展
示館が開館します。新展示館はこれまでの展示館の3
倍の面積があり、エルツ地方の詳しい紹介や、エルツ
のおもちゃの広く深い文化性を展示するとのことだ
す。一度訪ねてご覧になっては如何でしょうか。

湘南日独協会 2002 年度活動予定

■ 4月27日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 5月25日(土) 第21回例会

「デュッセルドルフの思い出を歌に託して」

…デュッセルドルフ男声合唱団の

トークコンサート…

ご存知のようにドイツのデュッセルドルフは一時
8,000人の日本人ビジネスマンが駐在し、現地日本人
学校には1,400人の子供が通うというヨーロッパにお
ける大きな日本人の町を形成していました。その時の
各社の駐在員の方々が日本に帰ってから親交を続け
て「デュッセルドルフ男声合唱団」という名前で活動
しています。今回はその合唱団の皆さんに町の歴史と
現況を話していただき、併せて合唱も披露していただ
きます。終了後はミニパーティーで交流します。

会場 ニュー向洋(江ノ電江ノ島駅徒歩5分・P有)

■ 6月22日(土) 会員懇話会 18:00～

会場 ホテル法華クラブ藤沢2Fローズルーム

■ 7月28日(日) 第22回例会

湘南名物「ドイツフェア」

日時 7月28日(日)午後6時開場 6時30分開宴

会場 湘南ホテル

出演 楽団シュバルベ、藤沢男声合唱団、藤沢フォー
クダンスクラブ

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 4. NO. 2. 通巻20. 発行 2002.3.23.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0055 藤沢市南藤沢8-9 中丸ビル2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第20回例会

ドイツ ハノーバー ニーダーザクセン国立歌劇場
ソロフルート奏者 ミリン氏を迎えて

「フカン・ミリン - 田代純子 デュオコンサート」

【演奏者の恩師からのメッセージ】

ミリン君は私のミュンヘン時代よりの生徒で、縁
あって東京芸術大学大学院に留学しました。本日の
コンサートの企画が発表された以降もクーラウコン
クールで1位に入賞するなど、現在のドイツを代表
するフルート奏者に成長しました。彼は輝くような
響きをもった音色で訴えかける非常に豊かな表現力
の持ち主です。また、田代純子さんはその経歴から
みてドイツの音楽の表現に卓越された方とお見受け
します。本日、湘南日独協会のご尽力により実現し
たこのコンサートはまさに日独文化交流そのもので
あると思います。好演を期待します。

元ミュンヘン音大教授・東京芸大客員教授

パウル・マイゼン

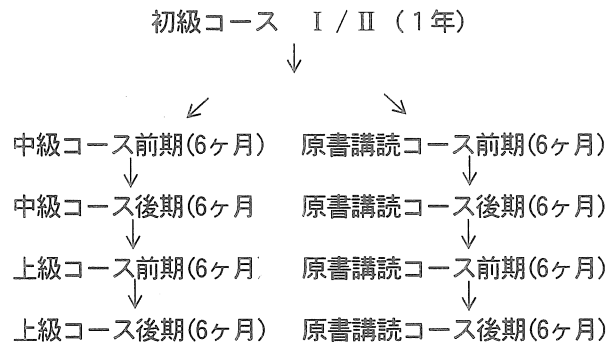
日時 2002年3月23日(土) 午後2時開演

会場 藤沢リラホール(藤沢駅より徒歩3分)

湘南日独協会ドイツ語講座について

日独でそれぞれの文化を共有し、かつ、享受しようという趣旨で湘南日独協会が設立されました。文化の共有、享受のためには、少なくとも相互的に相手国の人たちの典型的な価値観やものの見方を知ることには大変重要です。興味の尽きないところでもあります。言語の中にはそれを使っている人たちの価値観やものの見方が溶け込んでおりますので、言語を習得することは、その国民をより深く理解するための近道であるとも云えるでしょう。言語を習得すれば、今までより深い友情を共有できたり、また、その国を訪問した場合には、今までより能動的に知見を深めたりすることも可能になるでしょう。さらに、その国の文学やその他の文献を直接理解することができれば、自らの知的好奇心の世界を掘り深めていくことも可能になるのではないのでしょうか。

当協会はドイツ語講座を次のような構成で進めていきたいと思っています。



1. 初級コースIは、今まで一度もドイツ語というものに接したことのない方々のためのものです。初級コースIIは昔、少し勉強したけれど・・・という方々のためのものです。どちらからでもご自由に参加できます。(ただし、4月からのコースは初級コースIだけです。)

2. 初級コースI and/or IIを終了した時点で、会話中心に勉強したい方々のためのコースと原書講読を中心に勉強したい方々のためのコースに分かれ、易しいものから始め、それぞれだんだん高度な内容になっていきます。

3. 講座は3年間で完結することになります。

湘南とドイツ②

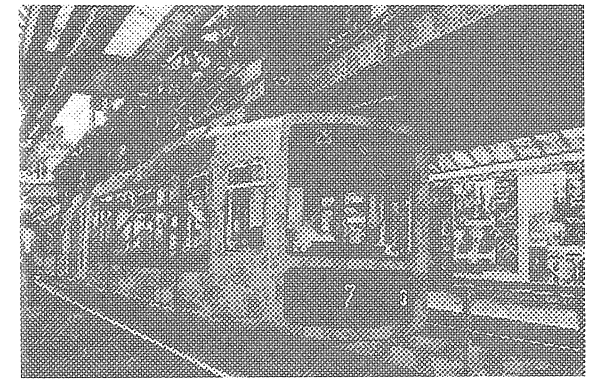
江ノ島懸垂電車とドイツ

会員 吉田克彦

昭和初期の頃、片瀬から江の島へ、さらには岩屋のある稚児が淵へと懸垂電車、つまり懸垂形モノレールの計画が持ち上がっていました。その全貌をなかなか知ることが出来なかったのですが、たまたまインターネットの検索中に高橋浩明氏の書かれた「江の島における懸垂電車騒動顛末記」なるものが藤沢市文書館紀要に掲載されていることが分かりました。この労作を参考にしながら湘南とドイツとの関わりを江の島モノレール建設の夢と挫折のドラマから追ってみましょう。

昭和三年七月四日付けの東京日々新聞神奈川版に「片瀬から江の島へ 珍、懸垂電車これなら風浪平気 江の島電鉄に認可される」という見出しの記事が掲載されました。この懸垂電車を建設しようとする理由を創立趣意書で見えます。「……タビ懸垂電車二乗ジテ空中ヲ快翔シツゝ遠キ富士山頂ノ積雪ヲ仰ギ顧ミテ大島ノ噴煙ヲ眺メ湘南一帯ノ長汀曲浦ヲ俯瞰スルニ至ラバ人ハ未ダ江ノ島ヲ見ザルニ早ク自然ノ美ニ陶醉セザルヲ得ヌデアロウ……」こうした夢とは裏腹に江の島懸垂電車の行く手には悲運が待ちかまえていました。この懸垂電車の施設権は同年一〇月に江の島電鉄の子会社として発足した江ノ島懸垂電気鉄道株に譲渡されます。この事業は同年一月一五日に日本懸垂鉄道株に、翌昭和四年六月二八日には空中電気鉄道株に引き継がれると言った具合に流転を重ねてゆきます。

昭和四年七月に提出された工事施工認可期限延期申請の中に「…懸垂電気鉄道ハ我が国最初ノ事業ニシテ設計調査等専ラ独逸「エルバーフェルト」ノ懸垂電車ヲ基礎トシ之レニ相当ノ改良ヲ加ヘ計画シタル



今も活躍するエルバーフェルトのモノレール
(平井 正著：ドイツ鉄道事情より)

モノニシテ…」とありました。そうしますと江の島懸垂電車は一九〇一年(明治三四年)ドイツ中西部のバルメンとエルバーフェルトの町を結ぶ新しい交通手段として開通した懸垂電車の実績に基づいて約三〇年の後に江の島に導入されようとしていたことがうかがえます。エルバーフェルトの懸垂電車は開通後一〇〇年を経た今日も健在だと言うことですが、江の島懸垂電車の方は漁民を始めとする住民の反対運動、世界恐慌による資金難、江の島と周辺が史跡名勝に指定されたこと、江の島栈橋に自動車を通す計画の浮上などの情勢のもとに空中電気鉄道株は遂に昭和一〇年七月四日、懸垂電車の事業を断念することになりました。

聞くところによりますとエルバーフェルトの懸垂電車の敷設に際しても猛烈な反対論が巻き起こったと言います。何しろ世界で初めての懸垂電車ですから「不気味な箱」「疾走する怪物」「化け物」などと呼ばれたのでした。しかし懸垂電車開通の後には世界の七不思議になぞらえて市民は「われわれの八番目の世界の不思議」と称して懸垂電車を自慢していると言います。昭和初期の「プロジェクトX」江の島懸垂電車が実現していたら、良かったのか悪かったのか一概には申せませんが、ドイツを参考にして日本初の懸垂形モノレールに取り組んだ人たちがこの地に居ただけは知っておいていいと思うのです。